

中国時代の青木さん 中国の歴史(参考)

中国の歴史(参考)

王朝 人物など

周(一〇四六～二五六)

※日本・弥生時代

春秋戦国時代 孔子、管子、韓非子

非子

秦(前二四六～前二〇一) 始皇帝

前漢(前二〇二～八) 文帝、武帝、司馬遷

新(八～二三)

後漢(二五～五七)

三国時代(二〇一～二八〇)

晋(二六五～四二〇)

南北朝時代(四三九～五八九) ※古墳時代

隋(五八〇～六一八)

※奈良・平安

唐(六一八～九〇七)

五代十国(九〇七～九六〇) 時代

北宋(九六〇～一一二七)

南宋(一一二七～一二七六) ※鎌倉時代

元(一二七〇～一三六八) ※室町戦国時代

明(一三六八～一六四四) ※江戸時代

清(一六四四～一九一一年) ※江戸時代

中華人民共和国(一九四九～)

◎連載②

Myway

「中国の歴史ほど興味深いものはありません。汲めども汲めども尽きないのです」

青木 和夫



大正十年、新潟市に生まれる。戦前、満州で軍役に就く。戦後新潟相互銀行勤務。満州時代から現在まで、史記など中国歴史書を研究している。

登場人物を募集 自選、他選問わず

「わたしが中国の歴史に興味を覚えたのは、戦前、満州に行っていたとき、関家の大人(主人のこと)に会ってからです。関家は清王朝の貴族で、落ちぶれたとはいえないへんりつばななでした」

青木和夫さんは、広報くろさきに六月から「牡丹に寄せあれこれ」とをずっと投稿されている。そこに書かれている中国古史の造詣の深さは皆さんご承知のとおりである。

「戦争が終わった後、シベリアに抑留されました。帰ってきたのは昭和二十四年です。それからですね。史記」を読み始めたのは、史記は中国前漢時代に司馬遷がまとめたもので、全百二十巻から成り、世界史に残る大歴史書である。

「最初は大人から中国語を教えてもらおうと思ったんですが、わたしも中国各地を回り、歴史に触れていったわけです」

悠久何千年と言われる中国の歴史。歴史書だけでも数多い。「歴史書には二つあるんです。一つは断代史。これは一つの王朝を

記したもので、三国志などです。もう一つは通説史。史記や十八史略など歴史の流れを書いたものです。史記は司馬遷の後も書き継がれ明までつづられています。」

史記のすばらしさは「史記は人物を書いていっているんです。性格がはっきりしています。それから、おもしろいわけです。難しくありません」

中国の歴史から最もおもしろい部分を話してもらった。「やはり、春秋の時代から前漢までですね。我々にもおなじみの人物がたくさん出てきます。まず、孔子、管子、韓非子などの学者。始皇帝、武帝などの皇帝、それから項羽と劉邦が戦った時代です。

シルクロードも武帝のときできていたわけですね。「ほかにたくさんあるんですよ。だいたい日本の文化や文学が中国の影響でできたようなものですよ。あの源氏物語など史記の影響をたくさん受けてます。まあ、中国の歴史は汲めども汲めども尽きないのです」

もう一度中国へ行ってみたくて、「心臓がちよつと悪いものですから。それにお金もありませんしね(笑)。関家の人はどうなんでしょうか。気になります」「この人は満州男なんです。本を読んだり書いたりするのが好きなんです」と奥さんのヒロさんが青木さんの傍らで笑った。

21363

小林重九郎さん (木場70歳)

新潟県猟友会善行賞を受賞

猟友会の監査委員を12年。「猟の時期になると昼も夜も山の中ですよ。もちろん悪質なハンターを見張るためである「最初は保護鳥を覚えるのがたいへんでした。たくさんいますし、鳥というのは遠くからでは判別できないですよ。おまけに夜や朝です」

今年、県で善行賞を受けたのは小林さんのほか一人だけ。この何年か該当者なしだったという。現在も町の猟友会(青山久男会長・77人)に所属し、野鳥駆除でも活躍されている。「黒埼町は県下でも野鳥駆除に力を入れてますね。わたしどももできるだけ協力していこうと思っています。ときには鳥を守り、ときには鳥を撃つ。たいへんな仕事である。

今月の表紙



「ねえボク、この版画はねこだよ。ねえー」「ううん。トラ。がーん、猫でないといけないの。今年



編集室から

新年明けましておめでとうございませう。今年もご愛読、ご投稿をお願いいたします。さて、アイデア大賞はどうだったでしょうか。「考えてたのに出さなかった。出せばよかったなあ」などと思われているかたも多いのでは。元旦は一年の始まり。思うは実行の始まりです。今度はちょっと勇気を出して書いてみませんか。町もアイデアを実行するには勇気がいるのです。

